

## 取扱説明書

### バンドソー

**RB120CV**  
**RB120FV**



#### 注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

目次	頁
はじめに	1
1. 安全上の注意	2
2. 各部の名称と仕様	5
2-1. 各部の名称	5
2-2. 仕様	7
3. 購入時の点検	8
4. 使用方法	8
4-1. 移動・すえ付け	9
4-2. 電源への接続	11
4-3. スイッチレバーの操作	13
4-4. バイスの操作	14
4-5. のこ刃の交換	17
4-6. 切断荷重の設定	19
4-7. のこ刃と切断荷重の選定	20
5. 切断の手順	21
5-1. カットオフ切断	22
5-2. コンター切断	23
6. 本機のとことかたづけ	25
7. 点検・整備	26
7-1. のこ刃とのかみガイド	26
7-2. 切断精度の補正	27
7-3. ライニングゴム	28
7-4. トラブルチェック	29


## はじめに


このたびは、新ダイワのバンドソーをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。  
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
- 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。


■このバンドソーは、カットオフ切断に加えコンター切断機能も装備した多機能切断機となっていますが、事故や故障の原因となりますので、この機能用途以外で使用しないでください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分していません。





 **警告**：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

 **注意**：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。


**<注意>**：その他の注意事項。

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

# 1. 安全上の注意

-  **警告**：漏電により感電するおそれがあります。
- 雨中では使用しないこと。
  - 本機は接地（アース）して使用すること。
  - 感電の危険性が高い所（水気の多い場所や鉄板の上など）での作業が必要となった場合は、必ず漏電しゃ断器が設置された電源を使用すること。
  - 電源プラグ（プラグアダプターも含む）の抜き差しは、ぬれた手で行わないこと。
  - 本機がぬれたときは、完全に乾燥させて使用すること。
-  **警告**：傷ついた電源コードで感電するおそれがあります。
- 電源コードが傷ついたまま、使用しないこと。
  - 電源コードを油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせないこと。  
のこ刃で切るなどして電源コードを傷つけたときは、切り口に触れずに、ただちに電源プラグをコンセントから抜きとってください。
-  **警告**：不意に動きだしたのこ刃でけがをするおそれがあります。
- のこ刃交換、移動・すえ付け、点検・整備は、電源プラグをコンセントから抜いて行うこと。
  - スイッチを入れたまま、電源プラグをコンセントに差し込まないこと。
  - 切断中にのこ刃が動かなくなったときは、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたうえで、原因を調べること。  
過負荷保護装置が作動してのこ刃が自動停止した場合、数分後に必ず電源が自動復帰します。このときスイッチが入っていると、のこ刃は急に動き出します。
  - 停電になったときは、スイッチを切って電源プラグをコンセントから抜いておくこと。
  - 使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておくこと。
-  **警告**：動いているのこ刃でけがをするおそれがあります。
- 動いているのこ刃には、手や身体を近づけないこと。
  - 切断材の取り付け・取りはずしは、スイッチを切って行うこと。
  - 切断荷重の設定は、スイッチを切って行うこと。
  - スイッチを切った直後も、のこ刃が慣性でしばらく動くため、手や身体を近づけないこと。

○改造したり、部品をはずして使用しないこと。

 **警告**：コンター切断のとき、動いているのこ刃で**けが**をするおそれがあります。

○『8山／インチ』ののこ刃は使用しないこと。

切断材の押しつけ具合によっては切り込みが深くなり、大きな切削力が生じます。

○丸材の切断は行わないこと。

切削力によって手で持った切断材が回されます。

○フレームカバーは閉じること。

○のこ刃開口部が最小となるよう、コンターカバーを下げること。

○切断材は、切断線から離れたところを両手でしっかり持つこと。

○切り終わりは押しつける力を弱めて、身体が前のめりにならないよう注意すること。

 **警告**：本機が転倒し、動いているのこ刃で**けが**をするおそれがあります。

○本機は、傾斜のない平たんな面にすえ付けること。

○コンター切断は、ベッドを台座にボルト固定するか、引き出したコンターフットを踏んで行うこと。

○長尺材の切断は、切断材の端を受け台で支えて行うこと。

 **警告**：フレームやベッドが落下し、**けが**をするおそれがあります。


○フレームを起こしたときは、ロックされたことを確認すること。

○スイッチレバーを操作するときは、フレームリフトノブを持ってフレームを支えること。

フレームをロックしたままスイッチを入れようとしたとき、スイッチレバーを引き過ぎてロックが解除することがあります。







○本機を立てて保管しないこと。

本機を立てると、フレームとベッドの固定用チェンがフックからはずれ、ベッドが落下します。

 **警告**：ヒンジ部で挟まれて、**けが**をするおそれがあります。

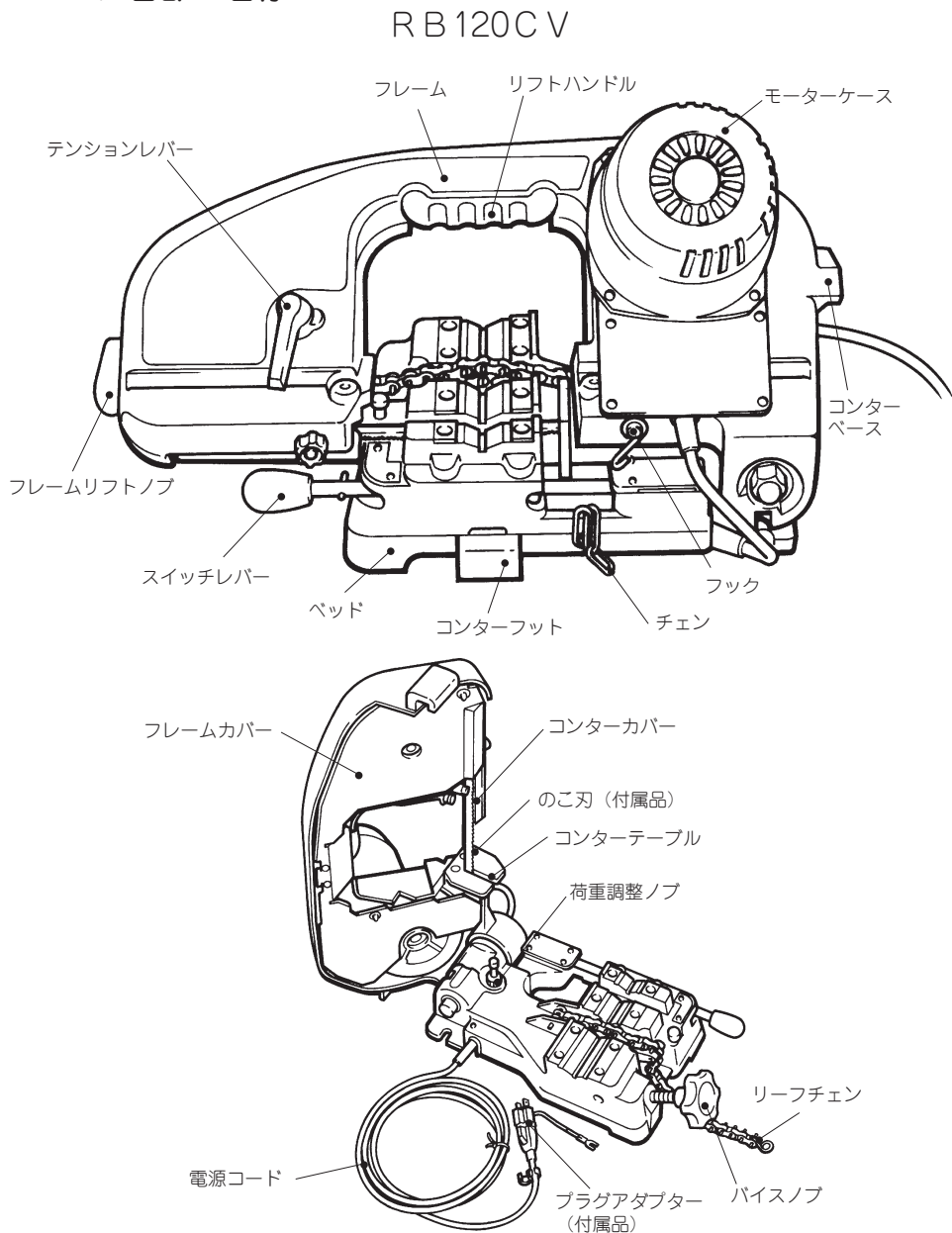
○本機を持ち上げるときは、ヒンジ部（フレームとベッドの間）に手を入れないこと。

フレームとベッドの固定用チェンがフックからはずれると、ベッドが落下します。

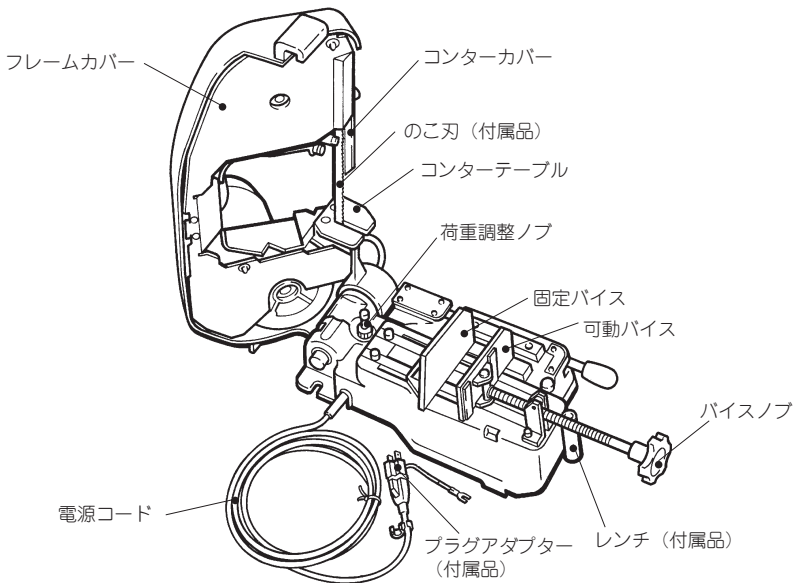
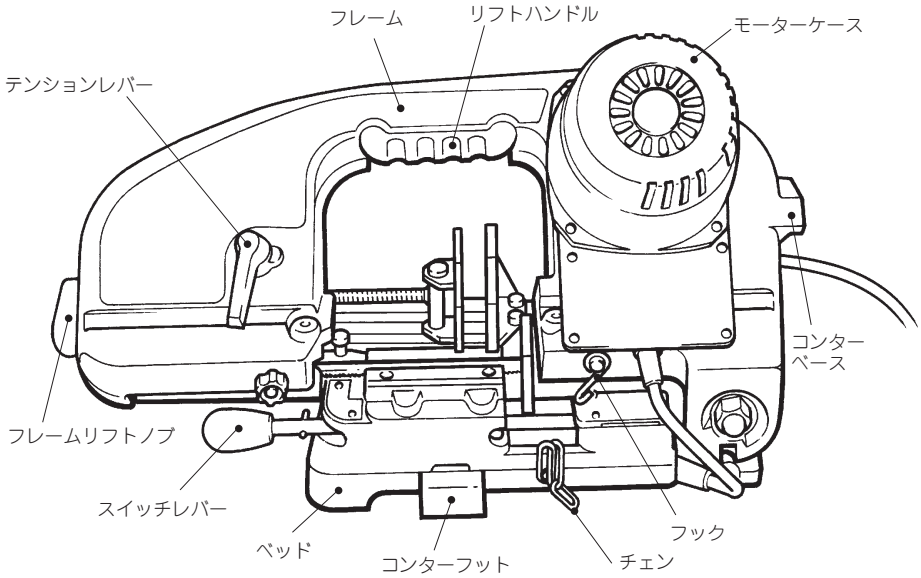
-  **注意**：動いているのこ刃に引き込まれ、**けが**をするおそれがあります。
- 身体に合った衣服を着用し、そで口・胸元を整えること。
  - 手袋を着用するときは、編み手袋は使用しないこと。
  - ネクタイやアクセサリーなどのぶらつくものは身に付けないこと。
  - 長い髪は束ねて、整えること。
-  **注意**：のこ刃が飛び出し、刃先で**けが**をするおそれがあります。
- フレームカバーは閉じて、切断作業を行うこと。  
スリップや寿命破断などで、のこ刃が飛び出すことがあります。
  - のこ刃交換のとき、フレームカバーは注意してゆっくり開くこと。
-  **注意**：リレースイッチ（モーター内部）の開閉により発生する火花で引火し、**火災**になるおそれがあります。
- 引火性のあるガソリン・シンナー・ガスなどの危険物がある所では使用しないこと。
-  **注意**：電源コードの接触不良・内部断線・短絡による発熱および放熱不足などで、**火災**になるおそれがあります。
- コードを持って電源プラグを引き抜かないこと。
  - 電源プラグ（プラグアダプターも含む）は、根元までしっかり差し込むこと。
  - 電源コードをストーブなどの高熱にさらさないこと。
-  **注意**：切削熱で、**やけど**をするおそれがあります。
- 切断材や切り方によっては切断部が高温になるため、切断直後は素手で触れないこと。
-  **注意**：絶縁が低下し、**感電**するおそれがあります。
- 本機は、水にぬれる所や湿気の多い所で保管しないこと。

## 2. 各部の名称と仕様

### 2-1. 各部の名称



# RB120FV



## 2-2. 仕様

型式		RB120CV	RB120FV	
定格電圧 (V)		100		
周波数 (Hz)		50/60		
定格消費電力 (W)		310		
定格出力 (W)		200		
モーター形式		単相インダクション		
のこ刃	長さ (mm)	1260		
	周速 (m/min)	44/53		
切断能力	90°	丸材 (mm)	φ 120	
		角材 (mm)	□95 □100×80 □90×100	□105 □120×70 □100×115
	45°	丸材 (mm)		φ 40
		角材 (mm)		□35
バイス方式		チェンバイス	平バイス	
コード長さ (m)		3		
外形寸法	長さ (mm)	615		
	幅 (mm)	250	260	
	高さ (mm)	355		
質量 (kg)		20	22	
標準付属品		のこ刃 NF14山/インチ、 プラグアダプター	のこ刃 NF14山/インチ、 プラグアダプター、レンチ	

オプション (別売) のこ刃 NF・BM 24山/インチ  
NF・BM 18山/インチ  
NF・BM 14山/インチ  
NF・BM 8山/インチ

スライド式大型コンターテーブル  
スタンド

切断材料 ライニング管 ガス管 電線管 ステンレス管  
鋼棒 鋼板 形鋼 アルミ 塩ビ管 その他



### 3. 購入時の点検

#### 傷害危険の注意事項



- 本機を持ち上げるときは、ヒンジ部（フレームとベッドの間）に手を入れない。
- 点検を行うときは、電源プラグをコンセントに差し込まない。

箱から本機を取り出して、次の点検を行ってください。

- 本機の外観に損傷がないか
- ネジ類のゆるみや脱落がないか
- 付属品に欠品がないか（『2-1. 各部の名称』を参照）

異常や欠品があったときは、お求めの販売店か弊社営業所へご連絡ください。

### 4. 使用方法

本機は、横型および縦型バンドソーとして、次の2つの切断ができます。

- 『カットオフ切断』  
切断材をバイスで固定し、ヘッド自重で切り落とす。
- 『コンター切断』  
切断材を手で持って、のこ刃に押しつけて切る。

#### <注意>

- スライド式大型コンターテーブル（別売り）を使用すると、より安定して正確な切断が行えます。

## 4 - 1. 移動・すえ付け

### 傷害危険の注意事項

#### ⚠ 警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて行う。
- 本機を持ち上げるときは、ヒンジ部（フレームとベッドの間）に手を入れない。
- 傾斜のない平たんな面にすえ付けて使用する。

### 感電危険の注意事項

#### ⚠ 警告

- 水気の多い場所や鉄板の上などにすえ付けて使用しない。

### 火災危険の注意事項

#### ⚠ 注意

- 引火性のあるガソリン・シンナー・ガスなどの危険物がある所にすえ付けて使用しない。

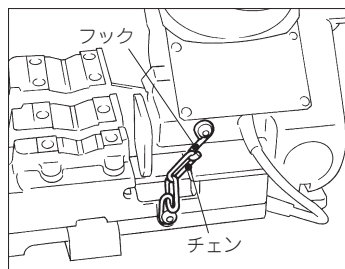
### (1)移動

移動は、次の手順で行ってください。

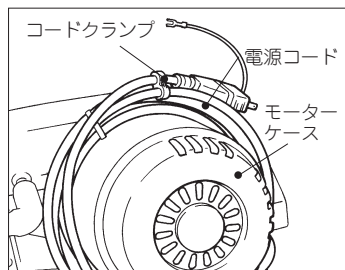
↓1 電源プラグをコンセントから抜きます。

↓2 バイスなどを動かないように固定します。

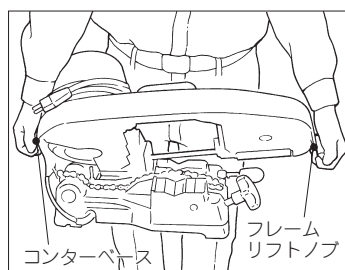
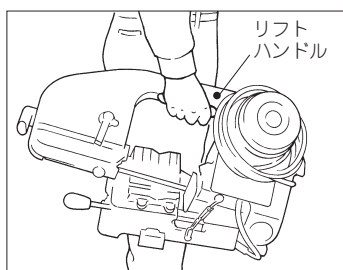
↓3 フレームをおろし、横のフックにチェーンをかけます。



- 4 電源コードをモーターケースに巻き付け、コードクランプでとめます。



- 5 片手でリフトハンドルを持って移動します。  
または、両手でフレームの両端（フレームリフトノブとコンターベース部）を持って移動します。



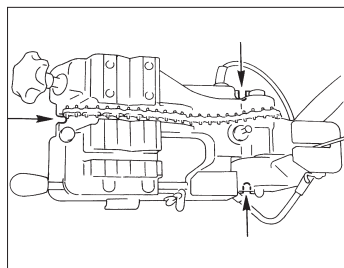
## (2)すえ付け

本機は、傾斜のない平坦な面にすえ付けてください。

作業台に固定する場合は、次の手順で行ってください。

- 1 安定した作業台の上に、本機を置きます。

- 2 ベットの固定穴位置（3ヶ所）を台座にけがき、M10のボルトが通る穴をあけます。



- 3 M10のボルト・ナットでベッドと台座を挟み、本機を固定します。

## 4-2. 電源への接続

### (1)電源コードと電源プラグ

#### 感電危険の注意事項

##### ⚠ 警告

- 電源プラグ（プラグアダプターも含む）の抜き差しは、ぬれた手で  
行わない。
- 電源コードが傷ついたら、使用しない。
- 電源コードを油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせない。

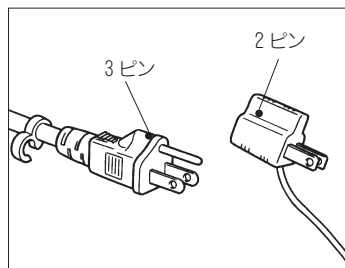
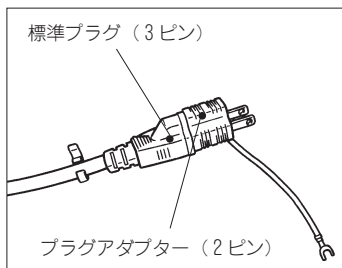
#### 火災危険の注意事項

##### ⚠ 注意

- コードを持って電源プラグを引き抜かない。
- 電源プラグ（プラグアダプターも含む）は、根元までしっかり差し込  
む。
- 電源コードをストーブなどの高熱にさらさない。

電源コードのプラグは、3ピン（接地付き）の標準プラグに2ピンのプラグアダプターが付属で装着されています。

接続する電源コンセントが3ピン用であれば、このアダプターを抜きとって使用してください。



## (2) 接地（アース）と漏電しゃ断器

### 感電危険の注意事項

#### ⚠ 警告

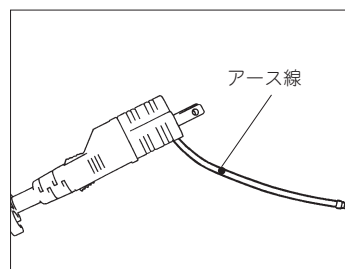
- 本機は接地（アース）して使用する。
- 感電の危険性が高い所（水気の多い場所や鉄板の上など）での作業が必要となった場合は、必ず漏電しゃ断器が設置された電源を使用する。

### 爆発危険の注意事項

#### ⚠ 警告

- 本機のアース線をガス管に接続しない。

2 ピンのプラグアダプターで使用するときは、アダプターに付いたアース線を用いて接地してください。



接地極（アース板、アース棒）が地中に埋められた接地線が設備されていない場合は、接地工事が必要です。この接地工事には電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

接続する電源に漏電しゃ断器が設置されていることを確認してください。

## (3) 電圧と延長コード

本機の使用電源は単相交流100Vです。電源コードを延長するときは、電圧降下を起こさないよう、十分な太さのできるだけ短い延長コードを使用してください。

下表は、コードの太さに対し、本機に使用できるコード長さを示します。

コードの太さ（公称断面積）	1.25mm <sup>2</sup>	2mm <sup>2</sup>	3.5mm <sup>2</sup>
延長コードの長さ	30m	50m	80m

## 4-3. スイッチレバーの操作

### 傷害危険の注意事項



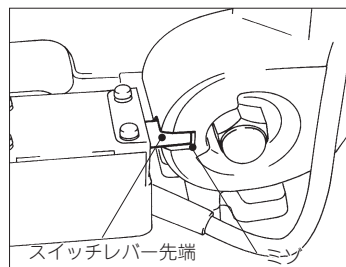
#### 警告

- フレームを起こしたときは、ロックされたことを確認する。
- スイッチレバーを操作するときは、フレームリフトノブを持ってフレームを支える。  
フレームをロックしたままスイッチを入れようとしたとき、スイッチレバーを引き過ぎてロックが解除することがあります。

スイッチレバーの操作で、フレームの『ロック』『ロック解除』およびスイッチの『ON』『OFF』を行います。

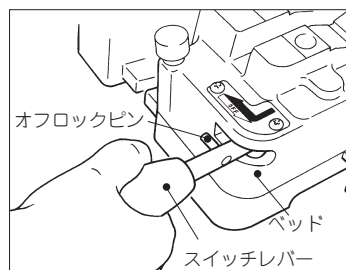
フレームを90°まで起こすと、スイッチレバーの先端がフレームのミゾに入り、フレームはその位置で『ロック』されます。

スイッチレバーを引いて、先端がミゾからはずれると、フレームは『ロック解除』され、おろすことができます。



本機のスイッチは、誤ってスイッチレバーに触れても、『ON』にならないよう、ピンによるオフロック構造になっています。

このピンがベッドからはずれるまでスイッチレバーを引くと、レバーを『ON』表示側に動かすことができます。



#### <注意>

- スイッチを『ON』にするとき、スイッチレバーを引き過ぎて先端がミゾからはずれると、フレームは『ロック解除』の状態になります。

『OFF』にするには、スイッチレバーを引く必要はなく、どの状態からでも『OFF』表示側にレバーを動かすことができます。

## 4-4. バイスの操作

### 傷害危険の注意事項

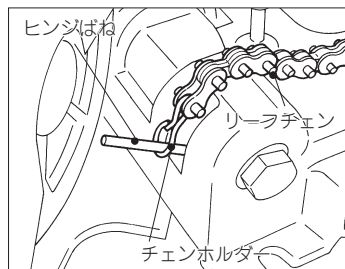


警告

○切断材の取り付け・取りはずしは、スイッチを切って行う。

### (1) チェンバイス

ヒンジばねに差し込まれているチェンホルダーは、フレームを起こして抜き取ってください。

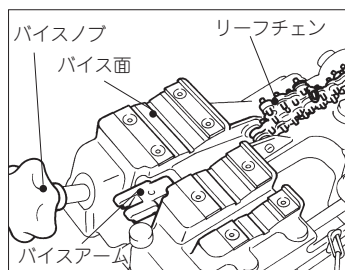


切断材のバイス固定は、次の手順で行ってください。

1 ↓ リーフチェンをバイス面の向こうへ置きます。

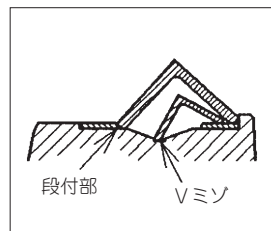
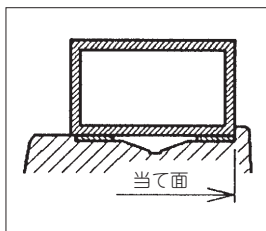
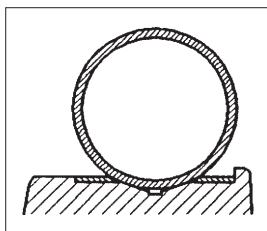
2 ↓ バイスノブを左に回してバイスアームを起こします。

3 ↓ 切断材をベッドのバイス面にのせます。



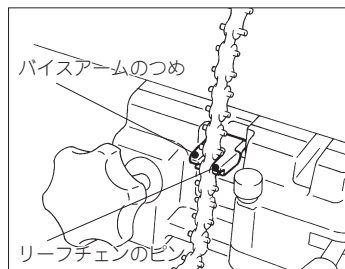
### <注意>

- 丸材は、バイス面のVミゾにのせてください。
- 角材や形鋼などは、切断材の角がバイス面前方の当て面かVミゾの底または、段付部へ沿うようにのせてください。



4 リーフチェンを切断材の上からかけます。

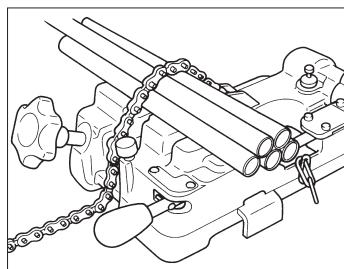
5 リーフチェンのピンをバイスアーム  
のつめにかけます。



6 バイスノブを右へ回し、切断材を締め付けます。

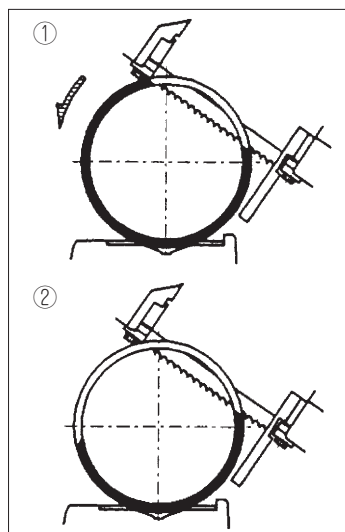
### <注意>

- 固定が不十分ですと、切断材が動き刃欠けや切断精度不良が発生します。特に、小径材を束ねて固定するときにはゆるみが出やすいので、切断材を手で動かしてみて、すべてが固定されていることを確認してください。



### <注意>

- バイスのチェンは、6 インチ管まで固定できる長さになっていますので、数回に分けて切断していけば、6 インチ管まで切り落とすことができます。ただし、切断面に多少段差が生じます。

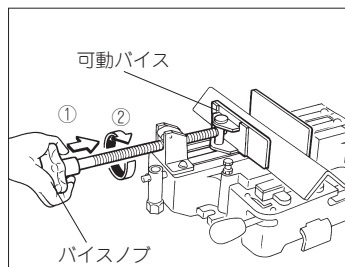




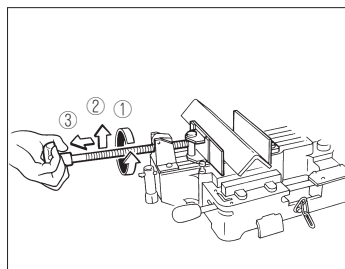
## (2)平バイス

次の操作で、可動バイスの早送り（前後移動）が行えます。

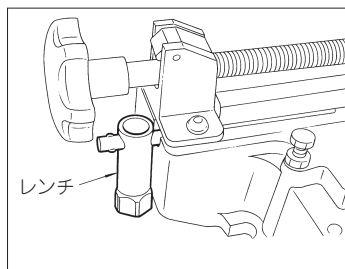
バイスノブを持ち、そのまま押すと可動バイスは前に進みます。



バイスノブを2～3回左へまわし、バイスがゆるんだ状態にして、バイスノブを持ち上げるように引くと、可動バイスは後ろにさがります。



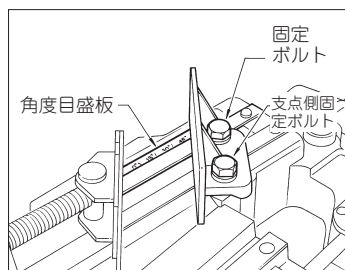
固定バイスの旋回は、付属のレンチを使い、次の手順で行ってください。



1 ボルト2本を1～2回ゆるめます。

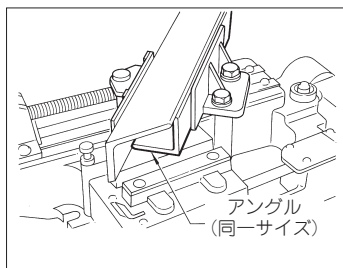
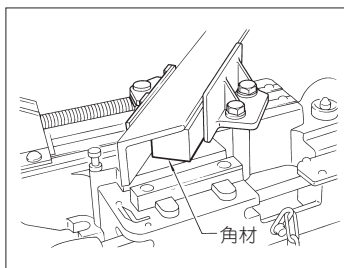
2 支点側のボルトを中心に、固定バイスを旋回させます。

3 バイス面を角度目盛板の目盛（0°～45°）に合わせ、ボルト2本を締め付けます。



## <注意>

- アングルを図のような向きでセットし、角度切りを行うときは、角材やアングル（同一サイズ）を補助治具として一緒にはさみ込むと、固定が確実となります。



## 4-5. のこ刃の交換

### 傷害危険の注意事項

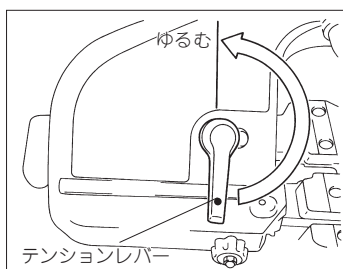


#### 警告

- 電源プラグをコンセントから抜いて行う。
- フレームを起こしたときは、ロックされたことを確認する。
- のこ刃の飛び出しに注意して、フレームカバーはゆっくり開く。

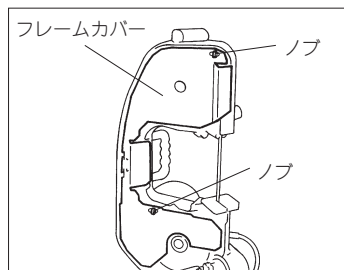
のこ刃の交換は、次の手順で行ってください。

- 1 テンションレバーを左に180°回し、のこ刃をゆるめます。

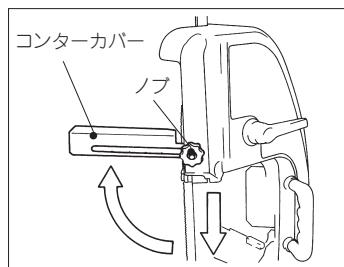


- 2 フレームを起こします。

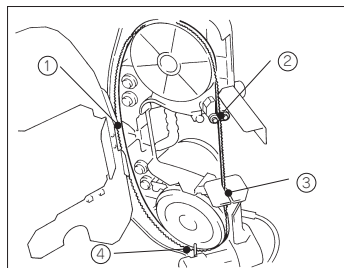
- 3 フレームカバーのノブ（2ヶ）を90°  
回し、フレームカバーを開きます。



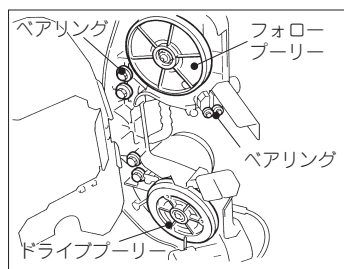
- 4 コンターカバーのノブをゆるめ、コン  
ターカバーをいっぱいまで下げてから  
90° 旋回させます。



- 5 取り付いていたのこ刃を、番号順には  
ずします。



- 6 プーリーやベアリングに付着している  
切り粉やよごれ、および装着するのこ  
刃の油やよごれをふき取ります。



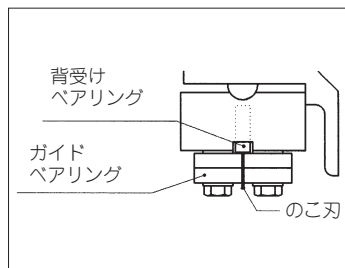
### <注意>

- 油や切り粉の付着は、のこ刃のスリップ  
やはずれの原因となります。

- 7 取りはずしと逆の順序で、のこ刃を取り付けます。

- 8 プーリーやベアリングからのこ刃がはずれないように、片手でのこ刃  
を押さえながら、テンションレバーを右に180° 回します。

- 9 この刃が、ガイドベアリングの奥まで入っているか、プーリーからはずれかかかっていないか確認します。



- 10 コンターカバーとフレームカバーを元の状態に閉じます。

### <注意>

- この刃は、お求めの販売店が弊社営業所にて、純正品をお買い求めください。

## 4-6. 切断荷重の設定

### 傷害危険の注意事項



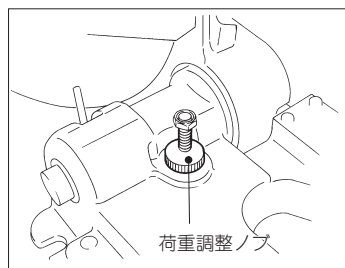
#### 警告

- スイッチを切って行う。
- フレームを起こしたときは、ロックされたことを確認する。

カットオフ切断を行うときは、切断荷重を設定してください。  
切断荷重によって切断スピード（切り込み量）の調整ができます。  
切断荷重の設定は、次の手順で行ってください。

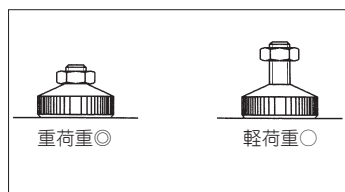
- 1 フレームを起こします。

- 2 荷重調整ノブを左右に回します。  
ノブの上下移動で切断荷重が変わります。



### <注意>

- 『重荷重 ◎』『軽荷重 ○』の間で、無段階に設定できます。



## 4-7. のこ刃と切断荷重の選定

下表を参考に、切断材に適したのこ刃および切断荷重を選定してください。

### のこ刃・荷重 選定目安表

◎重荷重 ○軽荷重

表中の『P』は、1インチ(25.4mm)あたりの山数(ピッチ)を示しています。

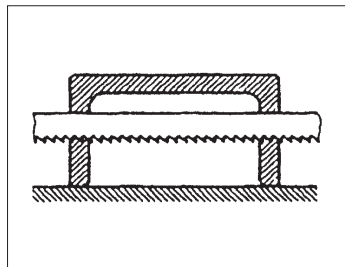
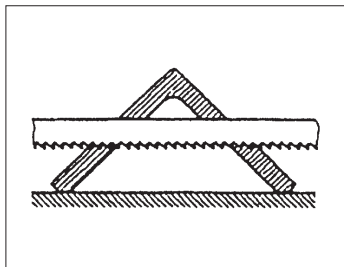
(例) 8P = 8山/インチ

材料		のこ刃	NF8P	BM8P	NF14P	BM14P	NF18P	BM18P	NF24P	BM24P
ライニング管	1 1/2" 以下				◎	◎	◎	◎		
ガス管	2" ~4"				◎	◎				
電線管	薄鋼						○	○	○	○
	厚鋼				◎	◎	◎	◎		
形鋼 肉厚(mm)	1.0~1.4								○	○
	1.5~2.9						○	○	○	○
	3.0~5.9				◎	◎	◎	◎		
	6.0~8.9	◎	◎	◎	◎					
	9.0~11.9	◎	◎							
	12.0以上	◎	◎							
鋼棒 材料幅(mm)	10以下				◎	◎				
	10~29	◎	◎	◎	◎					
	30~80	◎	◎							
ステンレス管 肉厚(mm)	1.0~1.4									○
	1.5~2.9							○		
	3.0~5.9					◎				
	6.0以上			◎						
ステンレス鋼棒	材料幅25mm以下		◎							
アルミニウム管 肉厚(mm)	1.0~1.4								○	○
	1.5~2.9						○	○		
	3.0~5.9				○	○				
	6.0以上	○	○							
アルミニウム棒	材料幅40mm以下	○	○							
塩ビ管				○	○	○	○			
鋳鉄管				◎	◎	◎	◎			

### <注意>

- のこ刃山数の選定は、『切断材の肉厚に、常に2山以上の刃がかかること』を基準にしてください。
- アルミニウム・銅系の目づまりしやすい材料を切断するときは、材料の外周にガムテープ等の粘着性テープを貼付けて、材料と共に切断してください。目づまり防止に効果があります。

- 形鋼については、図のように切断部が2ヶ所できる向きに取り付けたときの表示です。取り付け向きによって、切断荷重を調整してください。



- この表は目安であり、切断精度と切断スピードの優先度やのこ刃の摩耗状態に応じた切断荷重に、微調整することをお奨めします。

## 5. 切断の手順

### 感電危険の注意事項

#### ⚠ 警告

- 雨中では使用しない。
- 本機がぬれたときは、完全に乾燥させて使用する。
- のこ刃で切るなどして電源コードを傷つけたときは、切り口に触れずに、ただちに電源プラグをコンセントから抜きとる。

### 傷害危険の注意事項

#### ⚠ 警告

- 改造したり、部品をはずして使用しない。
- スイッチを入れたまま、電源プラグをコンセントに差し込まない。
- フレームを起こしたときは、ロックされたことを確認する。
- スイッチレバーを操作するときは、フレームリフトノブを持ってフレームを支える。
- のこ刃交換や点検は、電源プラグをコンセントから抜いて行う。
- 切断荷重の設定は、スイッチを切って行う。
- 切断材の取り付け・取りはずしは、スイッチを切って行う。
- 長尺材の切断は、切断材の端を受け台で支えて行う。
- 動いているのこ刃には、手や身体を近づけない。
- スイッチを切った直後も、のこ刃が慣性でしばらく動くため、手や身体を近づけない。

- 切断中にのこ刃が動かなくなったときは、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたうえで、原因を調べる。  
過負荷保護装置が作動してのこ刃が自動停止した場合、数分後に必ず電源が自動復帰します。このときスイッチが入っていると、のこ刃は急に動き出します。
- 停電になったときは、スイッチを切って電源プラグをコンセントから抜いておく。
- 使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておく。

### 注意

- 身体に合った衣服を着用し、そで口・胸元を整える。
- 手袋を着用するときは、編み手袋は使用しない。
- ネクタイやアクセサリーなどのぶらつくものは身に付けない。
- 長い髪は束ねて、整える。
- フレームカバーは閉じて、切断作業を行う。
- のこ刃交換のとき、フレームカバーは注意してゆっくり開く。
- 切断材や切り方によっては切断部が高温になるため、切断直後は素手で触れない。

## 5-1. カットオフ切断

切断作業は、次の手順で行ってください。

- 1 のこ刃と切断荷重を選定します。
- 2 のこ刃を取りつけます。
- 3 切断荷重を設定します。
- 4 切断材をベッドにのせ、切断位置を合わせます。
- 5 バイスで切断材を締め付けます。
- 6 スイッチを入れ、フレームをおろします。
- 7 切断材にのこ刃をゆっくり当てながら、フレームから手を離します。
- 8 切り終わると、自動的にスイッチが切れます。

### <注意>

- 刃先耐久性を上げるために、新品ののこ刃はならし切り（適正荷重より軽い荷重で1～2カットする）を行ってください。
- のこ刃を切断材の上に落下させたり、切断中にフレームを押さえつけたりしないでください。切断材が切れ曲がるだけでなく、のこ刃にも悪い影響（刃欠け・折損・曲がりぐせ）を与えます。

## 5-2. コンター切断

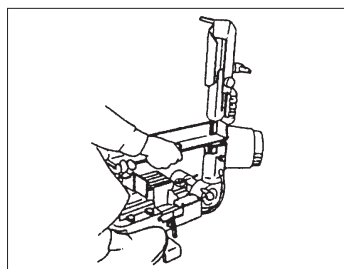
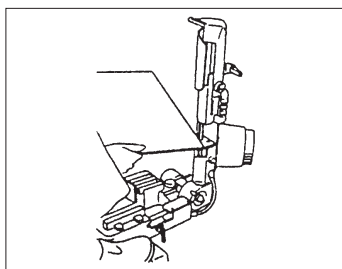
### 傷害危険の注意事項



#### 警告

- ベッドを台座にボルト固定するか、引き出したコンターフットを踏んで行う。
- 『8山/インチ』ののこ刃は使用しない。
- 丸材の切断は行わない。
- フレームカバーは閉じる。
- のこ刃開口部が最小となるよう、コンターカバーを下げる。
- 切断材は、切断線から離れたところを両手でしっかり持つ。
- 切り終わりは押しつける力を弱めて、身体が前のめりにならないよう注意する。

突き切りで、板材やアングルのノッチ（みぞ）加工などができます。



### <注意>

- 直線切り専用ののこ刃ですので、曲線切りはしないでください。曲がりぐせや刃欠けなど、のこ刃に悪い影響を与えます。



切断作業は、次の手順で行ってください。

1 フレームを起こします。

2 コンターフットをベッドから引き出します。(または、ボルト固定)

3 すえ付けが安定しているか確認します。

4 コンターカバーのノブをゆるめ、コンターカバーを下げます。

5 切断材の高さ(厚さ)に合わせ、コンターカバーを固定します。

6 スイッチを入れます。

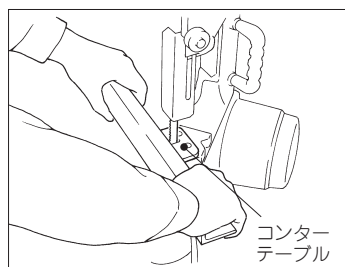
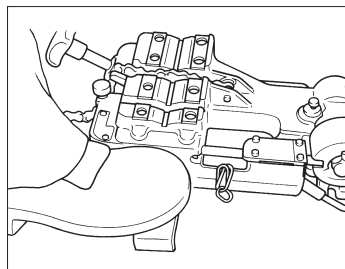
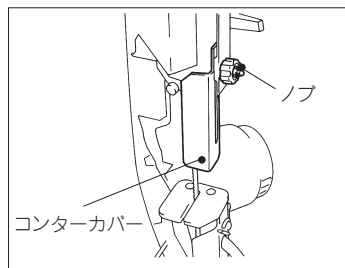
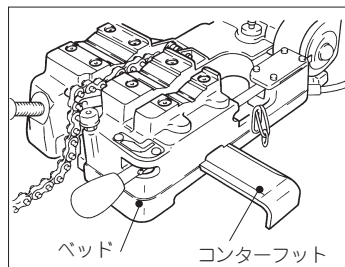
#### <注意>

○スイッチを『ON』にするとき、スイッチレバーを引き過ぎて先端がミゾからはずれると、フレームは『ロック解除』の状態になります。

7 コンターフットを踏みます。(転倒防止)

8 切断材をコンターテーブル面に押しつける感じで、徐々に送って切断します。

9 切断後は、スイッチを切ります。



10 コンターカバーとコンターフットを元にもどします。

<注意>

- フレームをおろすときは、コンターカバーを収納してください。  
コンターカバーがベッドに当たり、変形することがあります。

## 6. 本機のとつかたづけ

### 傷害危険の注意事項



#### 警告

- 本機の手入れは、電源プラグをコンセントから抜いて行う。
- 本機を立てて保管しない。



#### 注意

- 本機は、小児の手の届く所や落下のおそれがある所で保管しない。

### 感電危険の注意事項



#### 注意

- 本機は、水にぬれる所や湿気の多い所で保管しない。

作業後は、次の手順で本機をかたづけしてください。

1 電源プラグをコンセントから抜きます。

2 フレームを起こし、のこ刃をはずします。

3 プーリー・ベアリング・のこ刃に付着している切り粉やよごれをふき取ります。

<注意>

- 特にコンター切断では、プーリーのライニング面に切り粉がたくさん付着しますので、よく落としてください。

4 フレームの内側・ヒンジ部・ベッドに溜った切り粉を、ブラシではき出します。

5 のこ刃を取り付け、パイスなどは動かないよう固定します。

↓6↓ 乾いた布か中性洗剤をつけた布で本体の汚れをふき取ります。

### <注意>

○変色や変形の原因となりますので、ガソリン・シンナーなどの石油類を使用しないでください。

↓7↓ フレームをおろし、横のフックにチェーンをかけます。

↓8↓ 電源コードをモーターケースに巻き付け、コードクランプでとめます。

↓9↓ 直射日光の当たらない、乾燥した場所に移動させ、保管します。

## 7. 点検・整備

### 傷害危険の注意事項



#### 警告

○電源プラグをコンセントから抜いて行う。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、定期的に点検・整備を行ってください。

### 7-1. のこ刃とのかみガイド

#### (1) のこ刃の点検

連続した刃欠けやき裂があった場合、または刃先摩耗で切れ曲がりが増えたときは、新品ののこ刃と交換してください。

### <注意>

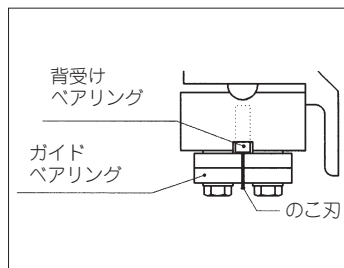
○必要以上の空運転は行わないでください。

のこ刃は、曲げとねじりによって胴部が疲労し、破断します。

## (2)のこ刃ガイド

背受けベアリングが摩耗して深いミゾができたり、特にガイドベアリングが摩耗してのこ刃とのすき間が大きくなると、切れ曲がりが発生します。

これらベアリングに摩耗があった場合は、交換してください。



### <注意>

- ガイドベアリングは上下2ケの片方が多く摩耗しますので、応急処置として、上下を入れ替える方法があります。

## 7-2. 切断精度の補正

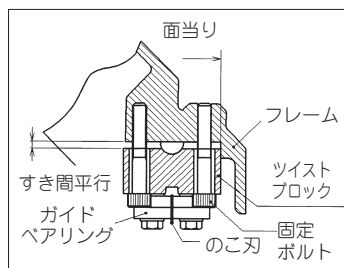
7-1. の点検・整備を実施しても切れ曲がり直らないときは、下記方法で補正できますが、微妙な調整が必要なため、お求めの販売店が弊社営業所にお申し付けいただくことをお奨めします。

### <注意>

- 本機の落下で、フレームなどに大きな変形が生じた場合は、お求めの販売店が弊社営業所にお申し付けください。

補正だけでは、のこ刃の破断寿命低下やはずれまで修理することができません。

工場出荷の正規セット状態は、ツイストブロックとフレームのすき間が平行で、かつツイストブロックの片側面がフレームに当たっている状態です。



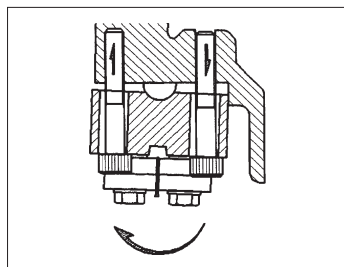
切れ曲がり補正は、次の手順で行ってください。

↓1 ツイストブロックの固定ボルトを、2本とも少しゆるめます。

↓2 左右のツイストブロックは同様に、次の調整を行います。

『切断上下方向の曲がり補正』

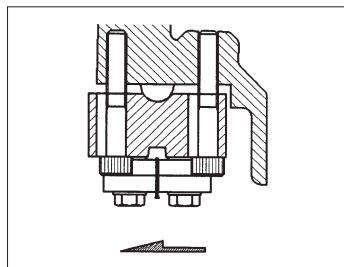
切れ曲がり方向と逆の向きにツイストブロックが傾くように、2本のボルトの締め込み深さを変えて、固定します。



『のこ刃進行方向の曲がり補正』

切れ曲がり方向と逆の向きにツイストブロックをずらせて、固定します。

↓3 のこ刃を取り付けて、試し切断をします。



<注意>

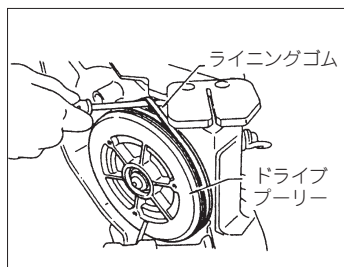
○ 試し切断には、新品ののこ刃を使用してください。

↓4 1～3を繰り返して、補正を完了します。

### 7-3. ライニングゴム

ドライブプーリーについているライニングゴムは、はめ込み式です。

ゴムが摩耗してのこ刃がスリップするときは、⊖ドライバーでミゾからすくい取って、交換してください。



## 7-4. トラブルチェック

トラブル	原因	処置
切断精度が悪い。	1. のこ刃のセット不良。	1. のこ刃ガイドベアリングの奥まで正規にセットしなおす。
	2. のこ刃を衝撃的に切断材に当てた。	2. のこ刃を静かに降ろす。
	3. 上記原因により、この刃にクセがついた。またはこの刃の摩耗。	3. のこ刃を交換する。
	4. のこ刃山数が適切でない。	4. 切断材に合った山数のこの刃に交換する。
	5. 切断中に切断材が動いた。	5. 切断材を確実に固定しなおす。
	6. 切断荷重が重い。	6. 適正荷重にセットする。
	7. ガイドベアリング、背受けベアリングの摩耗。	7. ベアリングを交換する。
	8. 固定パイスの位置が角度指示板の目盛からずれている。(FVのみ)	8. 固定パイスを適正な目盛位置に合わせる。
切断時間が長い。	1. のこ刃山数が適切でない。	1. 切断材に合った山数のこの刃に交換する。
	2. のこ刃の摩耗。	2. のこ刃を交換する。
	3. 切断荷重が軽い。	3. 適正荷重にセットする。
刃欠け。	1. 切断中に切断材が動いた。	1. 切断材を確実に固定しなおす。
	2. のこ刃を衝撃的に切断材に当てた。	2. のこ刃を静かに降ろす。
	3. のこ刃山数が適切でない。	3. 切断材に合った山数のこの刃に交換する。
	4. 切断荷重が重い。	4. 適正荷重にセットする。
フレームの振動。	1. のこ刃にきれつが入った。	1. のこ刃を交換する。
のこ刃のはずれ、スリップ。	1. のこ刃山数が適切でない。	1. 切断材に合った山数のこの刃に交換する。
	2. のこ刃のセット不良。	2. のこ刃ガイドベアリングの奥まで正規にセットしなおす。
	3. のこ刃に油がついた。	3. のこ刃の油をふきとってセットする。
	4. プーリーに油、切り粉がついた。	4. プーリーの油、切り粉をふきとる。
	5. フォロープーリーの摺動性が悪い。	5. 異物を除去してフォロープーリーがスムーズに動くようにする。
	6. ドライブプーリーライニングゴム寿命。	6. ライニングゴムの交換。
スイッチを入れても回転しない。	1. 電源が入っていない。	1. 電源を入れる。
	2. 過負荷保護装置の作動。	2. 数分後に自動復帰します。
	3. コードの断線。	3. }
	4. スwitchの故障。	4. } 販売店で修理。
	5. モーターの故障。	5. }



# 株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6181

## やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-1005 (代)

### 北海道支社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20    Tel 011-891-2249 (代)

### 東北支社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50    Tel 022-288-0511 (代)

### 東日本支社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-1091 (代)

### 中部支社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39    Tel 052-502-4111 (代)

### 西日本支社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159    Tel 086-296-5911 (代)

### 九州支社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7    Tel 092-573-5361 (代)

ご用命の際はお願い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-016 61 2  
X750 811-020 3

© 2020 株式会社やまびこ 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。